



平成23年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月10日

上場取引所 東大

上場会社名 株式会社 ネクシィーズ
コード番号 4346 URL <http://www.nexyz.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 管理本部長
四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

(氏名) 近藤 太香巳
(氏名) 松井 康弘

TEL 03-5459-7444

配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年9月期第1四半期の連結業績(平成22年10月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年9月期第1四半期	1,925	△3.5	40	△7.4	46	△14.2	△14	—
22年9月期第1四半期	1,994	47.4	43	—	53	—	22	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年9月期第1四半期	△11.59	—
22年9月期第1四半期	17.52	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年9月期第1四半期	6,830	4,345	27.1	1,460.21
22年9月期	7,350	4,533	27.6	1,597.67

(参考) 自己資本 23年9月期第1四半期 1,851百万円 22年9月期 2,025百万円

2. 配当の状況

	第1四半期末	年間配当金			合計
		第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年9月期	—	0.00	—	125.00	125.00
23年9月期	—	—	—	—	—
23年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年9月期の連結業績予想(平成22年10月1日～平成23年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,900	△2.2	50	△38.2	50	△27.0	10	—	7.89
通期	8,000	△0.5	250	△1.0	250	4.5	80	10.8	63.10

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.7「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年9月期1Q 1,341,364株 22年9月期 1,341,364株

② 期末自己株式数 23年9月期1Q 73,610株 22年9月期 73,610株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年9月期1Q 1,267,754株 22年9月期1Q 1,262,520株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）P6.「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2. その他の情報	7
(1) 重要な子会社の異動の概要	7
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	7
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	13
(5) セグメント情報	13
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	15

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間における我が国の経済は、新興国を中心として海外経済の回復が進み、政府や日銀による各種政策効果もあり、企業収益が緩やかに回復するなど持ち直しの動きを見せた一方で、雇用や所得環境に本格的な改善は見られず、急激な円高やデフレの影響が懸念されるなど、景気下振れリスクを抱えた不透明感の強い状況が続いております。GDPの伸び率は、10年7月～9月に1.1%増となりました。消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、前年同月比 $\Delta 0.4\%$ ～ $\Delta 0.6\%$ の間で推移し、デフレの状況が長く続いております。

このような状況の下、当社グループでは各事業セグメントをそれぞれ成長、発展させると同時に、グループシナジーの創出を図っていくことで、グループ収益力の更なる強化に努めております。

当社グループの事業の報告セグメントは、ブロードバンド事業、ソリューションサービス事業、文化教育事業の3つに区分されております。

ブロードバンド事業では、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供および加入希望者の獲得を行っております。

ソリューションサービス事業では、旅行ウェブマガジン「旅色」の提供のほか、金融商品仲介業務、保険代理店業務、業務用食品卸業支援等の企業の販売促進に関わる業務を行っております。

文化教育事業では、ハクビ総合学院による、きもの着付け教室等の運営や、呉服・和装小物等の販売が主な業務であります。

当第1四半期連結会計期間において、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の加入希望者獲得に加え、将来の収益力強化に向けて「Nexyz.BB」会員向けに付加サービスとして「Benefit Station」の提供に注力いたしました。また、旅行ウェブマガジン「旅色」で広告クライアントへの営業を強化しており、新規契約及び既存契約の更新が加わり広告クライアント数が増加いたしました。きもの着付け教室の運営においては、新たな料金体系のサービスを提供開始するなど、生徒募集の強化に向けて取り組んでまいりました。一方で、「Nexyz.BB」の営業人員の異動に伴う回線事業者から得られる受付手数料の減少や、保険代理店業務で新たな保険会社の取り扱い開始による人件費等の費用の先行がありました。

これらの結果、売上高1,925百万円（前年同四半期比3.5%減）、営業利益40百万円（前年同四半期比7.4%減）、経常利益46百万円（前年同四半期比14.2%減）となり、四半期純損失は14百万円（前年同四半期純利益22百万円）となりました。

当第1四半期連結会計期間における報告セグメントの概況は次のとおりです。

なお、当第1四半期から「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成21年3月21日）を適用しております。

文章中の各事業のセグメントの売上高及びセグメント利益の対前年同四半期比は、本基準等を適用した場合の金額に基づき算出しております。

[ブロードバンド事業]

ブロードバンド事業では、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供を行っております。

「Nexyz.BB」では、テレマーケティングによる営業を中心に新規の加入希望者の獲得を行っております。

「Nexyz.BB」は会員が底堅く推移し、サービス提供に伴う毎月の利用料金収入が得られました。当第1四半期連結会計期間は、主に「Nexyz.BB」会員向けの飲食店や宿泊施設等の割引サービス「Benefit Station」の提供に注力してまいりました。「Benefit Station」は利用者が増加することで、将来の利用料金収入の増大が見込まれます。一方で、事業のセグメント間で経営資源の最適配分を図るため、営業人員の一部をソリューション事業の「旅色」の営業に異動いたしました。これにより、「Nexyz.BB」の新規契約獲得時に回線事業者から得られる受付手数料が減少いたしました。

これらの結果、ブロードバンド事業は、売上高729百万円（前年同四半期比8.0%減）、セグメント利益2百万円（前年同四半期比90.9%減）となりました。

[ソリューションサービス事業]

ソリューションサービス事業では、様々な製品・サービスの販売促進を行っております。日本各地の観光情報、飲食店、宿泊施設などの旅行情報を提供するウェブマガジン「旅色」においては、ウェブサイトのリニューアルすると同時に、発刊の頻度を季刊から月刊に変更いたしました。また、エリア別に注目の観光情報を提供する特集号を発刊し、内容の更なる充実を図ってまいりました。特集号の発刊により、広告の対象となるクライアントの範囲が広がり、既存の広告クライアントに加え、新規の広告クライアント数も引き続き増加いたしました。これにより広告掲載料による収入も増加いたしました。一方で、保険代理店業務で収益源の多様化を図るため、新たにアメリカンホーム保険会社の保険取り扱いを開始し、導入段階における人件費や電話通信費等の費用が先行いたしました。また、過去において獲得した「Yahoo! BB」「おとくライン」の利用者の解約による自然減により、継続手数料が減少いたしました。

これらの結果、ソリューションサービス事業は、売上高555百万円（前年同四半期比3.3%減）、セグメント利益108百万円（前年同四半期比22.5%減）となりました。

[文化教育事業]

文化教育事業では、きもの着付教室等の運営を行っており、授業料や催事に伴う収入などの安定した収入を得ることができました。きもの着付教室の生徒募集を強化することで、生徒数の維持・増大を図っております。当第1四半期連結会計期間においては、初心者でも気軽にきもの着付を体験できるように、新たな料金体系によるサービスの提供を開始いたしました。また、きもの日（11月14日）に合わせて各校で様々な企画を開催したほか、主力教室の一つである新宿校を移設し、リニューアルいたしました。

これらの結果、文化教育事業は売上高656百万円（前年同四半期比0.3%減）、セグメント利益68百万円（前年同四半期比172.7%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債、純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は6,830百万円となり、前連結会計年度末に比べて519百万円の減少となりました。

流動資産は4,029百万円となり、前連結会計年度末に比べて615百万円の減少となりました。これは主に現金及び預金の減少1,186百万円のうち、流動資産の減少に影響のある短期借入金の返済、配当金の支払による現金及び預金の減少が614百万円あったことによるものであります。

固定資産は2,801百万円となり、前連結会計年度末に比べて95百万円の増加となりました。これは主に資産除去債務会計基準の適用に伴う影響等で敷金及び保証金が43百万円、有形・無形固定資産が減価償却等により45百万円減少した一方で、投資有価証券が201百万円増加したことによるものであります。

流動負債は2,416百万円となり、前連結会計年度末に比べて326百万円の減少となりました。これは主に投資有価証券の取得による未払金が209百万円、未払配当金が44百万円、配当に伴う源泉所得税等の預り金が44百万円それぞれ増加した一方で、短期借入金が返済により500百万円、1年内償還予定の社債が償還により40百万円、未払法人税等が67百万円減少したことによるものであります。

固定負債は68百万円となり、前連結会計年度末に比べて5百万円の減少となりました。これは主に預り保証金が4百万円減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は4,345百万円となり、前連結会計年度末比188百万円の減少となりました。その主な内訳は以下のとおりであります。

まず、四半期純損失を14百万円計上したことに加え、期末の配当を行ったことにより、利益剰余金が173百万円減少いたしました。そして、連結子会社で配当があったこと等に伴い少数株主持分が13百万円減少しております。

以上により流動比率は166.7%となり前連結会計年度末比2.6ポイント低下いたしました。株主資本比率は、27.1%となり前連結会計年度末比0.5ポイント低下いたしました。時価ベースの株主資本比率は53.9%となり前連結会計年度末比0.2ポイント上昇いたしました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の期末残高は1,406百万円となり、前連結会計年度末残高2,592百万円と比較して、1,186百万円の減少となりました。当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は110百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益40百万円、非現金支出項目として減価償却費51百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額57百万円を計上した一方で、関係会社株式売却益37百万円、未払消費税等の減少額14百万円、法人税等の支払額63百万円があったほか、預け金、前払費用の増加等により資金が139百万円減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は391百万円となりました。これは主に、関係会社株式の売却による収入55百万円があった一方で、貸付による支出450百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は685百万円となりました。これは主に、借入金の返済に伴う短期借入金純減少額500百万円、配当金の支払額114百万円、社債の償還による支出40百万円、少数株主への配当金の支払額30百万円が発生したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

[ブロードバンド事業]

ブロードバンド事業では、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の加入希望者の獲得及び「Nexyz.BB」会員向けの飲食店や宿泊施設等の割引サービス「Benefit Station」の提供に引き続き注力してまいります。サービス維持のためのサーバー等の設備投資が発生することが見込まれるものの、安定したISP料金収入に加えて、「Benefit Station」の利用者がさらに増大することで毎月の収入が更に増加していく見込みであります。

[ソリューションサービス事業]

ソリューションサービス事業では、旅行ウェブマガジン「旅色」において、雑誌やテレビ、スマートフォンなどの様々なメディアで露出度を上げていくと同時に、新たな企画や特集を立ち上げ、より魅力的なサービスの提供と広告クライアントの拡充に努めております。広告クライアントである宿泊施設や飲食店、レジャー施設等が着実に増加しており、年間契約の更新も見込まれることから、堅調に推移するものと思われまます。また、金融商品仲介、業務用食品卸業支援、保険代理店業務等についても、概ね堅調に推移する見込みであります。

[文化教育事業]

文化教育事業では、きもの着付け教室の運営による安定した収入と、季節や時期に応じたイベントや展示会による臨時的な収入が見込まれます。なお、展示会等の催事は例年通り主に7月～9月に集中的に開催する予定です。同事業の成長には、今後の生徒の集客が必要不可欠であり、各教室の段階的なリニューアルを続けると同時に、若者に対する訴求力を上げるため、必要に応じて広告宣伝やイベントを通じて生徒の募集を強化してまいります。

この結果、通期でのグループ全体の損益は、売上高8,000百万円、営業利益250百万円、経常利益250百万円、当期純利益80百万円を予想しております。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1百万円、1百万円、58百万円減少しております。また当会計基準等の適用開始により、投資その他の資産の「敷金及び保証金」が58百万円減少しております。

（四半期連結貸借対照表に計上しているもの以外の資産除去債務について）

当社本社ビル（東京都渋谷区）について、不動産賃貸借契約等に基づく原状回復義務を有していますが、事業を継続する上で移設、撤去が困難であり原状回復義務の履行の蓋然性が極めて低いため、当第1四半期連結会計期間末においては資産除去債務を計上していません。

四半期連結損益計算書の表示方法の変更

「受取利息」は、前第1四半期連結累計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりましたが、当第1四半期連結累計期間において営業外収益の総額の100分の20を超えたため、区分掲記することといたしました。

なお、前第1四半期連結累計期間の「受取利息」の金額は285千円であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,406,421	2,592,754
受取手形及び売掛金	985,088	985,427
商品	116,627	119,812
未収入金	578,371	567,026
その他	975,397	410,101
貸倒引当金	△32,841	△30,543
流動資産合計	4,029,065	4,644,579
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品(純額)	284,377	304,928
その他(純額)	204,187	204,090
有形固定資産合計	488,564	509,018
無形固定資産		
のれん	198,892	206,488
その他	128,313	145,928
無形固定資産合計	327,205	352,416
投資その他の資産		
投資有価証券	1,157,909	956,658
敷金及び保証金	492,023	535,628
繰延税金資産	57,163	76,080
その他	358,410	365,681
貸倒引当金	△80,062	△89,997
投資その他の資産合計	1,985,445	1,844,050
固定資産合計	2,801,215	2,705,486
資産合計	6,830,281	7,350,065
負債の部		
流動負債		
買掛金	330,163	316,324
短期借入金	500,000	1,000,000
1年内償還予定の社債	—	40,000
未払金	826,011	616,165
解約調整引当金	311,803	328,815
その他	448,318	441,324
流動負債合計	2,416,297	2,742,628
固定負債		
その他	68,255	73,631
固定負債合計	68,255	73,631
負債合計	2,484,552	2,816,259

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,653,660	4,653,660
資本剰余金	4,439,468	4,439,468
利益剰余金	△6,880,822	△6,707,654
自己株式	△339,926	△339,926
株主資本合計	1,872,379	2,045,548
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△21,189	△20,102
評価・換算差額等合計	△21,189	△20,102
少数株主持分	2,494,537	2,508,359
純資産合計	4,345,728	4,533,805
負債純資産合計	6,830,281	7,350,065

(2) 四半期連結損益計算書
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	1,994,499	1,925,552
売上原価	1,160,288	1,139,728
売上総利益	834,211	785,823
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	211,181	218,168
賃借料	150,550	145,955
減価償却費	40,350	31,517
その他	388,634	349,896
販売費及び一般管理費合計	790,715	745,537
営業利益	43,495	40,286
営業外収益		
受取利息	—	3,332
受取手数料	878	780
投資事業組合運用益	2,640	—
消費税等差額	6,152	1,389
持分法による投資利益	—	2,795
その他	2,207	310
営業外収益合計	11,878	8,607
営業外費用		
支払利息	1,490	514
盗難損失	—	1,949
その他	250	405
営業外費用合計	1,741	2,869
経常利益	53,632	46,025
特別利益		
過年度損益修正益	—	15,710
関係会社株式売却益	—	37,570
特別利益合計	—	53,281
特別損失		
固定資産除却損	8,373	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	57,244
事業整理損	5,441	—
その他	—	1,845
特別損失合計	13,815	59,090
税金等調整前四半期純利益	39,816	40,215
法人税、住民税及び事業税	19,868	18,314
法人税等調整額	△13,501	32,744
法人税等合計	6,367	51,058
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△10,843
少数株主利益	11,335	3,856
四半期純利益又は四半期純損失(△)	22,113	△14,699

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	39,816	40,215
減価償却費	56,250	51,851
のれん償却額	5,665	2,712
解約調整引当金の増減額 (△は減少)	13,170	△17,011
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2,426	△7,637
受取利息及び受取配当金	—	△3,332
支払利息	1,490	514
持分法による投資損益 (△は益)	—	△2,795
投資事業組合運用損益 (△は益)	△2,640	—
関係会社株式売却損益 (△は益)	—	△37,570
子会社移転費用	—	1,837
固定資産除却損	8,373	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	57,244
事業整理損失	5,441	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△50,254	5,372
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,347	3,879
仕入債務の増減額 (△は減少)	32,672	13,536
未払消費税等の増減額 (△は減少)	7,852	△14,605
その他	46,833	△139,618
小計	165,753	△45,406
利息及び配当金の受取額	867	3
利息の支払額	△2,992	△1,586
法人税等の支払額	△58,779	△63,053
営業活動によるキャッシュ・フロー	104,849	△110,043
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△203	—
出資金の分配による収入	2,640	—
貸付による支出	—	△450,000
関係会社株式の売却による収入	—	55,375
有形固定資産の取得による支出	△2,033	△3,313
無形固定資産の取得による支出	△386	△500
長期前払費用の取得による支出	△1,996	△1,996
その他の支出	△496	9,228
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,475	△391,207

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△500,000
社債の償還による支出	△120,000	△40,000
配当金の支払額	△69,032	△114,227
少数株主への配当金の支払額	△88,740	△30,600
自己株式の処分による収入	15,670	—
その他の支出	△254	△254
財務活動によるキャッシュ・フロー	△262,357	△685,082
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△159,984	△1,186,333
現金及び現金同等物の期首残高	3,138,088	2,592,754
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,978,104	1,406,421

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

	ブロードバンド事業 (千円)	ソリューションサービス事業 (千円)	文化教育事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	774,658	561,186	658,655	1,994,499	—	1,994,499
(2) セグメント間の 内部売上高	18,226	33,198	—	51,424	(51,424)	—
計	792,884	594,384	658,655	2,045,924	(51,424)	1,994,499
営業費用	762,788	507,153	633,694	1,903,636	47,367	1,951,004
営業利益	30,095	87,231	24,960	142,287	(98,792)	43,495

- (注) 1. 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。
2. 各区分の主な内容

事業セグメント名	主な事業の内容	主要な事業会社
ブロードバンド事業	インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供、加入希望者の獲得、附帯するサービスの提供	(株)Nexyz.BB (株)ネクシィーズ・コミュニケーションズ
ソリューションサービス事業	製品・サービスの販売促進、ノウハウや技術の提供、コンサルティング業務	(株)ネクシィーズ イデアキューブ(株) (株)ネクシィーズ・トレード (株)ソニア・パートナーズ (株)ユーシーシー・ネクシィーズ (株)ブランジスタ (株)Nexyz.VP
文化教育事業	きもの着付け、くみひも、ちぎり絵等の教室運営、呉服や和装小物等の販売	(株)ハクビ (株)美楽衣

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

当社グループは本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

当社グループは海外売上高がないため、該当事項はありません。

【セグメント情報】

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

なお、持株会社である当社は、マネジメント・アプローチに基づいた将来のキャッシュ・フローを適切に評価できるよう、従来「ソリューションサービス事業」に含まれていた連結子会社からの管理業務受託収入を、調整額に含めて開示しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、セグメント商品・サービスの内容の類似性等を考慮して報告セグメントを区分しており、「ブロードバンド事業」「ソリューションサービス事業」「文化教育事業」の3つを報告セグメントとしております。

なお、各報告セグメントの事業内容は以下の通りであります。

報告セグメント	属するサービスの内容	主要な事業会社
ブロードバンド事業	インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供、加入希望者の獲得、附帯するサービスの提供	(株)Nexyz.BB (株)ネクシィーズ・コミュニケーションズ
ソリューションサービス事業	製品・サービスの販売促進、ノウハウや技術の提供、コンサルティング業務	(株)ネクシィーズ アイデアキューブ(株) (株)ネクシィーズ・トレード (株)ソニア・パートナーズ (株)ユーシーシー・ネクシィーズ (株)ブランジスタ (株)Nexyz.VP
文化教育事業	きもの着付け、くみひも、ちぎり絵等の教室運営、呉服や和装小物等の販売	(株)ハクビ (株)美楽衣

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額
	ブロード バンド事業	ソリューショ ンサービス 事業	文化教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	729,072	546,786	649,693	1,925,552	—	1,925,552
セグメント間の 内部売上高又は振替高	765	8,765	6,750	16,280	△16,280	—
計	729,837	555,552	656,443	1,941,833	△16,280	1,925,552
セグメント利益	2,746	108,882	68,078	179,707	△139,420	40,286

(注) 1. セグメント利益の調整額△139,420千円には、セグメント間取引消去179千円、各報告セグメントに配分していない全社収益54,078千円、全社費用△190,966千円、各報告セグメントに配分していないのれん償却額△2,712千円が含まれております。

なお、全社収益は、主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

なお、本基準等を前第1四半期連結累計期間に適用した場合の報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報は以下のとおりとなります。

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	ブロードバンド事業	ソリューションサービス事業	文化教育事業	計		
売上高						
外部顧客に対する売上高	774,658	561,186	658,655	1,994,499	—	1,994,499
セグメント間の内部売上高又は振替高	18,226	13,248	—	31,474	△31,474	—
計	792,884	574,434	658,655	2,025,974	△31,474	1,994,499
セグメント利益又は損失	30,095	140,580	24,960	195,636	△152,140	43,495

- (注) 1. セグメント利益の調整額△152,140千円には、各報告セグメントに配分していない全社収益56,850千円、全社費用△203,325千円、各報告セグメントに配分していないのれん償却額△5,665千円が含まれております。なお、全社収益は、主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
該当事項はありません。